

古地磁気, 岩石磁気からみた松本盆地南縁, 梨ノ木礫層の年代

Peleomagnetic and rockmagnetic age estimate of the Nashinoki Gravel Formation south of the Matsumoto Basin, central Japan

植木 岳雪 [1]

Takeyuki Ueki[1]

[1] 産総研・地質情報

[1] GSJ/AIST

中部日本、松本盆地南縁の中部更新統梨ノ木

礫層の年代精度の向上のために、梨ノ木礫層構成層およびそれを覆う風成ロームの古地磁気、岩石磁気測定を行った。梨ノ木礫層は、58～69万年前に噴出した貝塩上宝テフラ（KMT）に覆われている。KMTおよびその下の風成ローム層の古地磁気方位は、北向きの偏角と中程度の下向き伏角の古地磁気方位を示す。一方、梨ノ木礫層最上部のフラッドローム層および砂層は、それぞれ北向きの偏角と深い下向き伏角、および南西方向の偏角と中程度の下向き伏角を示す。岩石磁気実験の結果から、風成ローム、KMTおよびフラッドロームの試料の磁性鉱物は、チタノマグネタイトを主体とし、チタノマグヘマイト、チタノヘマタイトを伴う。残留磁化は、主にチタノマグネタイトによって担われている。砂試料の磁性鉱物は、チタノヘマタイトを主体とし、チタノマグネタイトとチタノマグヘマイトを伴う。残留磁化はチタノヘマタイトによって担われている。梨ノ木礫層のフラッドローム層および砂層の中間的な古地磁気方位から、梨ノ木礫層はブリュヌー松山クロン境界付近で堆積したと考えられる。